

コミュニティ・防災減災部門

たのしく！むりなく！みんなでつくろう！五月田の避難所運営マニュアル ～事業避難所運営訓練HUG（ハグ）の実施～

○大阪府門真市五月田校区自治連合会会長 猿渡 勝美
NPO法人あいまち門真ステーション理事長 東田 正

1 活動方針・活動目的

門真市の五月田小学校区で「いざ！」というときのために避難所運営マニュアルを作成することを目的に、校区内の自治会員や小学校の教職員、摂南大学の学生が参加し、「避難所運営訓練HUG（ハグ）」を実施しました。

日時：平成26年（2014年）5月25日（日） 午後2時～午後4時30分

場所：門真市立五月田小学校体育館

主催：五月田校区自治連合会、摂南大学

共催：NPO法人 あいまち門真ステーション

協力：門真市

2 活動内容

大学教員の講義等を通じ、地域と大学の連携事業の紹介等を行い、地域での新たな取り組みを促進するため、門真市が実施した「平成25年度かどま市民講座」の中で、「地域のまちづくりにも役立つ防災対策事例を学ぶ～実践的防災教育プログラムと地域活動の取り組みを通じて～」という内容の摂南大学が取り組んでいる防災に関する講座がありました。

この講座を受けて、防災に対する地域での取り組みの重要性を認識したことから、摂南大学との協働事業として、五月田小学校区で例年開催されている、「五月田フォーラム」の中で、参加住民を4組のグループに編成し、避難者の年齢、性別及び国籍等それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館及び教室に見立てた平面図に、どれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こる様々な事象にどのように対応するかを模擬体験する図上訓練、「避難所運営訓練HUG（ハグ）」を実施しました。なお、「避難所運営訓練HUG（ハグ）」は静岡県開発のゲームです。

3 他の活動団体の参考となる事例

この事業を通じ、地域・NPO・大学・行政の4つの主体がそれぞれの特長を活かしながら、協働事業として開催できた点です。五月田フォーラムは19回を迎えましたが、毎年テーマを変えながら行っており、地域の各種団体が参加し共通認識を深める重要な機会です。

4 今後の課題

5月に「避難所運営訓練HUG（ハグ）」を実施し、地域の共通認識がつけられましたが、一過性の勉強から活動の定着化するための意識づくりが求められます。また、4つの主体それぞれがHUGを理解し、定着することを目指し、「ふりかえり」を行うことにより、「いざ！」というときに備えたいと考えております。

当初の予定では、26年末までに「ふりかえり」を終えて、まとめた意識の発表会・作品展示を考えておりましたが、地域行事の繁忙時期と重なり、次のステップに進めていないことが、五月田校区自治連合会の課題となっており、時期を検討しているところです。

たのしく！むりなく！みんなで作ろう！ 五月田の避難所運営マニュアル

～避難所運営ゲームHUG(ハグ)の実施～

Satukida

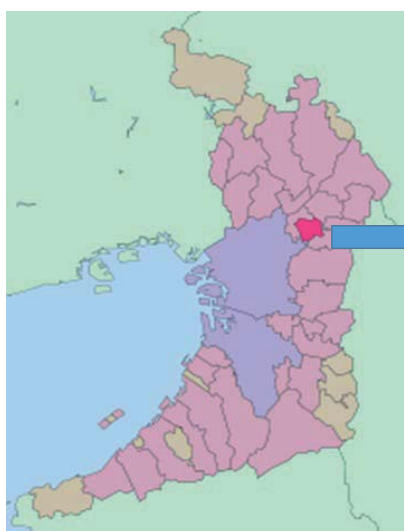


ふれあい

大阪府門真市五月田校区自治連合会
会長 猿渡 勝美



NPO法人 あいまち門真ステーション
理事長 東田 正

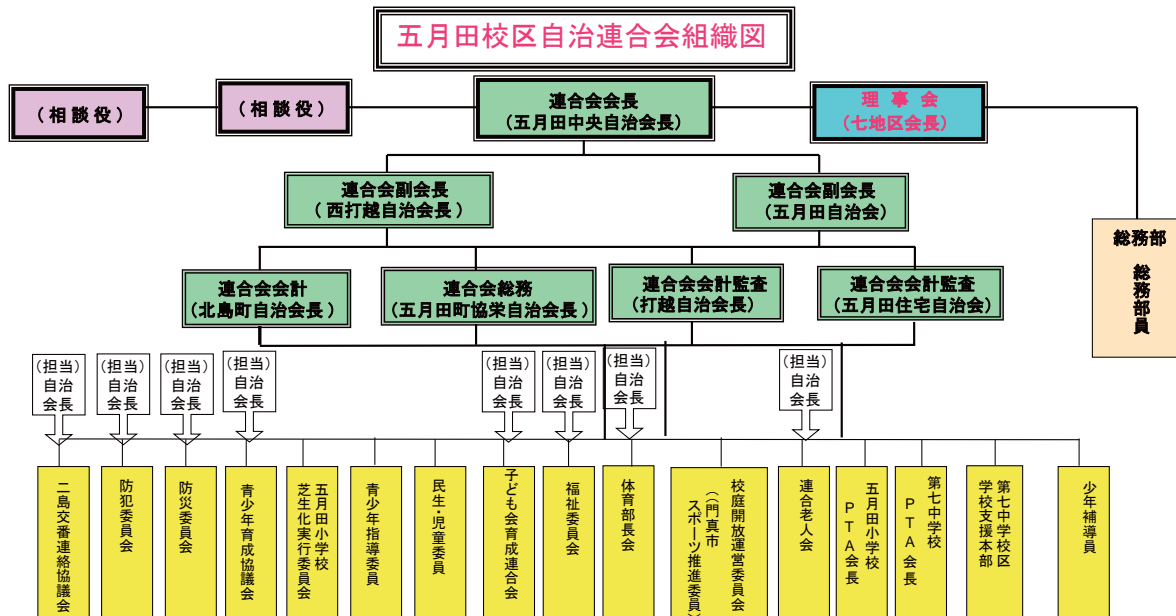


門真市は、大阪府北河内地域に位置し、面積が12、3平方キロメートル、人口12万6千人で、河内レンコンやパナソニックで知られております。

五月田校区自治連合会

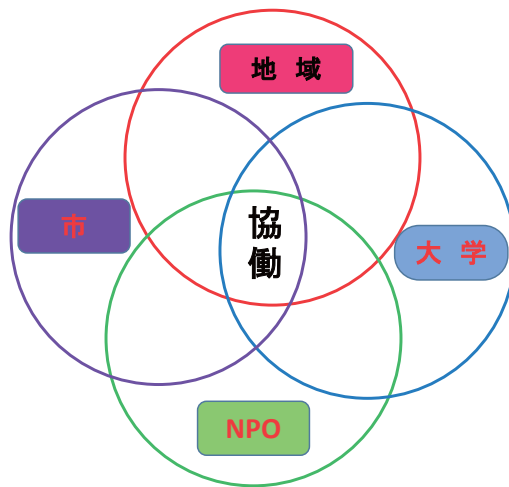


私たちの五月田校区自治連合会は、創立39年で門真市の中央にある五月田小学校を中心に
1621世帯の地縁^{ちえん}団体です。



特徴は、地域にある様々な団体組織が関係を持ち、PTA役員など学校関係者も地縁^{ちえん}団体である自治連合会に組み込まれており、校区全体のコミュニティーが形成されております。

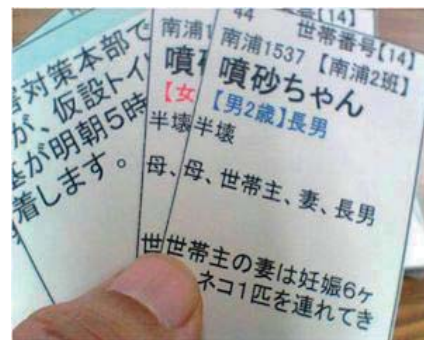
活動(HUG)の経緯



摂南大学理工学部建築学科
准教授 池内淳子

地域防災の取組を考えていた五月田校区自治連合会へ呼びかけ、五月田フォーラムにおいて門真市立五月田小学校体育館で「避難所運営ゲーム(HUG)」を実施する運びとなりました。

避難所運営ゲーム(HUG)とは



HUGとは、静岡県が開発した避難所運営ゲームです。

ゲーム参加者が避難者を体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

HUGの実施概要 (五月田フォーラム2014)

日時 : 平成26年5月25日(日曜日) 14:00~16:30

場所 : 五月田小学校体育館

HUG参加者 : 34名 五月田校区住民(32名) 門真市立第7中学校校長
五月田小学校教頭
摂南大学の学生7名 大学院生2名

摂南大学関係者 : 3名

住民見学者 : 55名

枚方土木事務所 : 3名 寝屋川市職員 : 2名 大東市市職員 : 1名

門真職員 7名 NPO 4名

報道関係 : 日本経済新聞 FMIはなこ 門真市広報

平成26年5月25日、五月田小学校の体育館で学校の教員・大学生を交えて五月田校区住民がHUGを行いました。

参加者ならびに見学者の状況は、ご覧の通りで総勢121名、門真市以外からも多くの方に参加して頂きました。



グループの構成はこのようになっており、子育て年代の女性グループを編成しています

事後報告会

日時:2014年7月13日(日) 13:30~15:00

場所:NPO法人あいまち門真ステーション

参加者:避難所運営訓練HUGの参加者 23名

プログラム:アンケート等の結果報告

五月田校区からの意見集約と質疑応答



学生からアンケート結果と分析の報告があり、防災に対する意見が集約されました。

HUGの成果

地域の成果

- 大学・行政・^{ちえん}NPO・^{いきがくれんけい}地縁団体との域学連携による、協働意識の構築ができた。
- HUGを体験することにより、防災意識の向上が図れた

班別による特徴と成果

子育て班

- ・避難者を体育館へ避難させる
- ・幼い子供を抱えた避難者に別室を用意する配慮があった

地域班

- ・避難者を校舎へ避難させる
- ・避難者の年齢やそれぞれの事情を基準に避難者を振り分けた

子育て班は避難者の立場で、地域班は避難所を運営する立場で考えており、相互の理解が進んだ

振り返りと次のステップ

- ・ HUGを行い、訓練後に住民主体で避難所運営マニュアルを作成するためのワークショップを実施した。
- ・ マニュアル作成には至らなかったが、日常生活の立場の違いで、作成する避難所のレイアウトも異なることが理解でき、次へのステップにつなげていく。
- ・ HUGを経験した住民たちは、災害時に自主的に行動することができるため、住民をまとめられるリーダーとなる人財を増やしたい。



平成26年5月25日(日) 大学関係者・自治会長
写真



平成27年2月6日(金)の感謝状贈呈式
(摂南大学2014年度建築防災研究室報告会にて)



ご清聴ありがとうございました



蓮ちゃん